



健康だより



第1期号 大和保育園 令和5年6月27日

最近では保育園で溶連菌感染症が流行していました。園医によると、RSウイルスも流行しているそうです。これから夏になり、暑くなる季節です。子どもの三大夏風邪をご紹介します。

<手足口病>

手、足、口、お尻、口の中などに水疱や発疹ができる、ウイルス性の感染症です。口内炎ができると痛みのより食事や水分がとれず脱水症状になることがあるので、注意しましょう。

<ヘルパンギーナ>

突然熱が出て、喉の奥に口内炎のような白い潰瘍ができる、ウイルス性の感染症です。口内炎ができると、食事や水分補給が困難となり脱水になりやすいので、注意が必要です。

手足口病、ヘルパンギーナの主な感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染です。症状が治まった後もしばらくはウイルスが排出されるため感染拡大を防ぐ感染予防対策が重要です。排泄物の後は石けんによる手洗いを行い、消毒、タオルやおもちゃの共用を避けるなどの対策をしましょう。

<咽頭結膜熱(プール熱)>

目の充血、目やに、発熱、のどの痛みなどの症状があります。プールで感染しやすいのでプール熱と呼ばれますが、プール以外でも感染します。また、大人も発症しますので注意しましょう。感染経路は飛沫感染、接触感染です。タオルの共有は避けましょう。こまめな手洗い、うがい、消毒をして感染予防をしましょう。

どれも登園届(保護者記入)が必要な感染症です。症状があった場合は、早めの受診をお願いします。そして、医者に登園できるかどうかを必ず確認して下さい。

